

福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例 ー現代のモダンなリビング空間にマッチするラタン製品の開発ー

隈本 あゆみ*1 楠本 幸裕*1 本 明子*1 井上 友子*2 鹿田 和正*3 石橋 清志*4

The Project with which it's Supported to Improve the Furniture Branding. The Example Product Development by the Project with which its Supported to Advance the Product Planning Capability

- Development of Rattan Products which is Matching at Modern Living Spaces -

Ayumi Kumamoto, Yukihiro Kusumoto, Akiko Moto, Tomoko Inoue, Kazumasa Shikada and Kiyoshi Ishibashi

株式会社鹿田産業は、竹すだれ等のコントラクト製品とラタン家具の企画・販売を主力とする企業である。従来のラタン家具は雑誌通販が主な販売ルートで、薄利多売の販売戦略によってコストを抑えた昔ながらの製品が多く「ラタン＝古臭い」というイメージが定着していた。この状況を打破するため、2023年に高級ブランド「鹿田室礼」を立ち上げたが、通販商材とのデザインの乖離が課題であった。そこで、「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」に参加し、「鹿田室礼」と通販商材とのデザインの乖離を埋める製品開発に着手した。その結果、「シンプルな中に上品さと可愛らしさを感じさせるモダンなデザイン」というコンセプトを構築し、株式会社石橋清志建築設計事務所のデザインを元に試作を行い「tu-tu-mu〈包む〉チェア」として製品化した。

1 はじめに

本報告は、「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」（以下、「本事業」という）における株式会社鹿田産業（以下、「鹿田産業」という）の製品開発の取り組みを報告する。本事業の目的や概要については、令和2年度研究報告掲載「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例（その1）」¹⁾内の「1 はじめに」と「2 方法」を参照されたい。また、本事業において鹿田産業の製品開発に関わった製品開発グループおよびデザイン事業者のメンバーを表1に示す。

表1 製品開発グループとデザイン事業者

製品開発グループ	デザイン事業者
・九州産業大学 芸術学部 井上友子教授 ・株式会社鹿田産業 ・インテリア研究所	・株式会社石橋清志建築設計事務所

2 事業の取り組み内容

2-1 製品開発の目的

鹿田産業は、竹すだれ等のコントラクト製品やラタン家具の企画・製造・販売を主力とする従業員17名（事業参加当時）の企業である。コントラクト事業を展開する傍ら、通販市場に向けたラタン製品の企画販売も行っている（図1）。2023年には、会社全体を挙げたブランド構築の一環として有名デザイナーを起用し、高級ホテルや富裕層をターゲットとした高級ブランド「鹿田室礼（しかだしつらい）」を立ち上げた（図2）。しかし、従来の低価格でデザイン性の低い通販商品と、ハイブランド「鹿田室礼」との間に顕著なデザイン乖離が生じていた。この乖離を埋めるため、本事業に参加し、低価格帯の通販商品とハイブランド「鹿田室礼」の中間価格帯に位置する製品の開発を行うこととなった（図3）。



図1 低価格帯の通販製品

*1 インテリア研究所

*2 九州産業大学

*3 株式会社鹿田産業

*4 株式会社石橋清志建築設計事務所



図 2 ハイブランド「鹿田室礼」

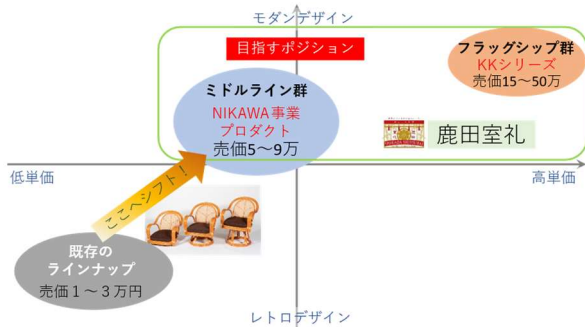


図 3 開発製品のイメージ

2-2 製品コンセプトの構築とデザイン事業者の選定

製品コンセプトの構築は鹿田産業が中心となり、製品開発グループが適宜サポートする体制で進めた。今回開発する製品は、社内では「ミドルライン製品」、販売媒体は「通販雑誌」と位置付けた。そこで、デザイン事業者には、鹿田産業が求めるインテリアイメージを提示し、それに合うアイテムのデザイン提案を求める手法を採用した。鹿田産業のメンバーがインテリアイメージ画像を集め共有する作業を通じて、開発製品のターゲット層を「40～60代の経済的に余裕のある女性」とし、「ナチュラルモダンなリビング空間に合うラタン製品」というコンセプトが構築された。

次に、製品開発グループはデザイン仕様書の作成に取り組んだ（図 4）。デザイン仕様書とは、デザイン事業者に委託する製品デザインの内容を詳細に記載するものである。開発グループで議論を重ね、「現代のリビング空間に適したラタン素材インテリア製品」という開発テーマを設定し、これに基づいてデザイン事業者を全国から募集した。

公募の結果、5社から8件の提案が寄せられ、その中から最もコンセプトに合致し、ユニークなデザインを提案した株式会社石橋清志建築設計事務所（大阪

府）の「tu-tu-mu<包む>シリーズ」（図 5）が審査委員会によって採択された。なお、単年度の開発期間である本事業内で開発対象となったのは、「tu-tu-mu<包む>シリーズ」の中でもチェアとランタン（フロアライト）の2製品である。本報告では、特に課題が多かったチェアの開発について詳述する。

（デザイン仕様書の主な仕様）

ターゲット

- ・40～60代女性、経済的に余裕のある女性
- ・「家庭画報」や「婦人画報」（質の高い衣食住の通販雑誌）を利用している、愛読している

デザイン

- ・ナチュラルモダンなリビング空間に合う
- ・ラタンの曲げ限界を考慮
- ・3辺合計250 cm 以内（梱包）

バリエーション

- ・イスの提案はマスト
- ・他に 3～5 点のアイテム（スツール、テーブル、ランプシェード etc）

図 4 仕様書の概要

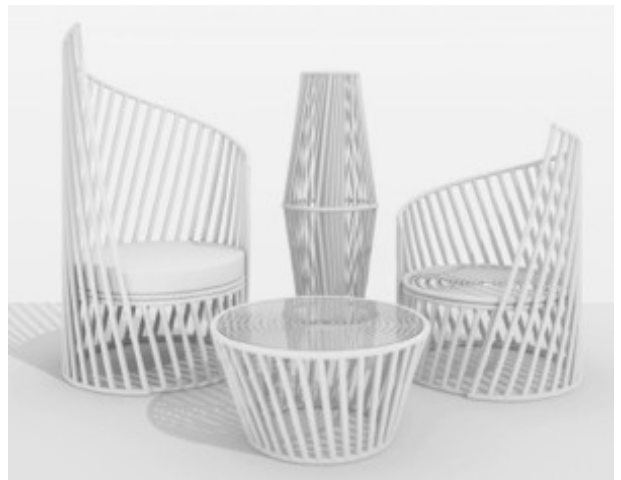


図 5 tu-tu-mu<包む>シリーズ

2-3 デザインの具現化(製品の製作)

① デザイン案の具現化

株式会社石橋清志建築設計事務所が提案した「tu-tu-mu<包む>チェア」は、円柱状の座面部分と、それを包み込む背もたれ部分の2つの部材から成るデザインであった。当初、斜めのスポークは座面部分と背もたれ部分ともに同じ方向で構成されていたが、これで

は十分な強度を確保できないと判断し、座面部分のスポークを背もたれ部分と逆方向にする修正を行った。

次に、提案当初のデザインでは、背もたれ部分の最上部に力が加わった際に、ラタン特有の「しなり」が製品の安全性を損なう恐れがあった。この安全性を確保するため、サイズ変更を実施した。

② 使い心地の検討

「tu-tu-mu<包む>チェア」は、座面と背もたれにクッションを取り付けることで、四季を通じて快適に使用できる仕様を目指した。そこで、ラタン製品の製造を行っているインドネシア工場が入手可能なクッション材と生地を選定し、実際に座った際の快適性を考慮した検討を重ねた。

以上の2点の課題解決を経て、「tu-tu-mu<包む>チェア」の製品化に至った（図6）。

「tu-tu-mu<包む>チェア」は、意匠権の保護を目的として、鹿田産業と福岡県の共同出願という形で、特に特徴的な背もたれ部分のみの部分意匠を出願し、登録された²⁾。



図6 完成した「tu-tu-mu<包む>チェア」

2-4 考察

今回の鹿田産業の製品開発において、本事業の他の支援企業と比較して特徴的であったのは、一般的な木材とは異なる性質を持つ「ラタン」を主要素材とし、かつ「通販雑誌」を主要な販売媒体とする点であった。ラタンはその柔軟性と加工性から独特の曲線美を生み出す一方で、強度設計には専門的な知見が必要となる。また、通販雑誌に掲載されるためには、バイヤーからの厳しい価格評価をクリアする必要がある、デザイン性に加え価格を抑える工夫が求められた。

これらの課題に対し、以下のように対処した。ラタンの特徴を理解するため、鹿田産業のラタン専門知

識を持つインドネシア工場の担当者とデザイナーとの間で綿密な打ち合わせを重ねた。これにより、デザイナーの意匠を尊重しつつも、強度を確保した製品設計を実現した。また、価格面については、まずデザイナーが求める品質のプロトタイプを製作し、そのデザインを損なわない範囲で、鹿田産業がバイヤーに響く価格帯までコストを抑え、素材の再選定を行った。このアプローチにより、デザイン性と市場性の両立を図った。

これらの対応を踏まえ、今後の製品開発では、特に以下2点の対策を講じる必要があると考えられる。第一に、デザイナーが不慣れな素材を扱う場合は、今回のように素材に精通したメーカー担当者との連携を密にし、初期段階から技術的な実現可能性と制約について詳細な議論を重ねることが不可欠である。第二に、デザインの理想と販売目標価格との間に乖離が生じた場合、単にコストダウンを指示するのではなく、「この理想のデザインを維持しつつ、市場競争力のある価格に抑えるためにはどのような選択肢があるか」という具体的な問いをデザイナーに投げかけ、共に最適な解決策を探求するプロセスを強化するべきである。これにより、より高度なデザイン性と市場性を両立させた製品開発が可能となることを期待できる。

3 まとめ

鹿田産業は本事業へ参加し、製品開発グループの協力を得て、「現代のリビング空間に適したラタン製品」という製品コンセプトを構築した。更にそのコンセプトに基づいたデザインを株式会社石橋清志建築設計事務所が担当することで、「tu-tu-mu<包む>チェア」を製品化した。

事業終了後、鹿田産業は量産に適した価格設定となるように材料の調整を行い、2026年5月を目標に通販雑誌へ売り込みを行う予定である。

4 参考文献

- 1) 石川 弘之、隈本 あゆみ、西村 博之、青木 幹太、酒見 史裕、酒見 典広、田中 敏憲：福岡県工業技術センター研究報告、No30、pp. 21-24 (2020)
- 2) 意匠登録 第1819104号